

奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句
令和元年十二月度 入選句（投稿総数二千六百六十四句・小中学投句数千九百四十六句）

特選

きりかぶがひとりぼっちのふゆひなた 大垣市 秋吉 いちか(小四)

ふゆひなたは、冬の日差しをいいます。晴れた日はまぶしいほどですが、曇りの日は白くにごっていて、さまざまです。木を切りたおしたあとの切りかぶにあたたかな日差しが当たっているほのぼのとした風景が目にかびます。作者は切りかぶに「こしをおろしているのでしょうか。自然の中で身も心もゆったりとしたとてもすてきな俳句になりました。

師走だな流行語とか漢字とか 大垣市 小田切 亜実(小五)

師走の由来については「師は僧のこと、この月になると経をあげるため駆け回る」などの説があります。

テレビや新聞では年末になると、流行語や漢字の一字を発表します。日本中を熱くしたラグビーの「ワンチーム」や京都の清水寺では「令」という字が報道されました。そんなさわがしい世の中での風潮を少しさめた目線で見ている作者の姿がクールですね。

秋の川コイもボールも流れます 大垣市 松野 愛歌(小六)

秋の川は、冷ややかな水をたたえて静かに流れる川という風情です。大垣の街を流れる水門川では、どこをのぞいても大きな鯉がゆったりと泳いでいます。そんな中、ボールが流れてきて作者の目に止まりました。野球ボール、サッカーボール、ピンクのゴムまわりと色々な想像がふくらみます。読み手に想像させる事は、俳句にとっても大切な事です。

秀逸

秋の池しずくが落ちて顔きえる 大垣市 井手 星来(小六)

一枚の葉っぱがうかぶ冬の川 大垣市 三輪 心菜(小六)

冬ばれや水の青さと空の青 大垣市 後藤 康孝(小六)

おだやかに枯木が一つうつる川 大垣市 斉藤 悠真(小六)

おちばさんわーいとおちてうれしそう 大垣市 かめ田 しんじ(小二)

サンタさんきてくれるかないいこだよ 大垣市 松田 琉花(小二)

のきしたのこおりのつるぎぼくのぶき 大垣市 野ろ 歩む(小二)

弟がゆたんぽかわりだ冬の夜 大垣市 土屋 遼人(小三)

のきしたのほしがきひとつつまみぐい 大垣市 浅野 未結(小二)

サッカーでズバットシュートあきのそら 大垣市 広せそういちろう(小四)

入選

まんげつはよぞらにかがやく金メダル 愛知県碧南市 横井 友春(小五)
 かぜのなかすいもんがわにひがんぼな 大垣市 田中 大夢(小三)
 ゲームよりはいくたのしいぶんかの日 大垣市 小川 倅輝(小二)
 冬桜ほんのりびんくに色づいて 大垣市 吉川 星七(小六)
 冬の川光りながれるみなもかな 大垣市 日比野 惺真(小六)
 すきとおる冬のひかりが水面に 大垣市 山田 雄大(小六)
 冬天の青空下にすわるぼく 大垣市 渡邊 樹(小六)
 冬晴れの雲一つなし風の音 大垣市 平松 瑤介(小六)
 はしの下しずかにおよぐおやこがも 大垣市 藤野 萌愛(小六)
 冬晴れで雲ひとつなしかげぼうし 大垣市 小中野 優奈(小六)

入選

公園でおちばもあそぶすべりだい 大垣市 田代 友理(小二)
 ほしいものどこかで聞いているサンタサン 大垣市 佐竹 詠宇(小二)
 ポトポトとどんぐりおちる金生山 大垣市 原 志織(小三)
 ならんでるてつきんみたいつらたち 大垣市 坂下 璃亜(小三)
 あささむいこたつにはいつてかめになる 大垣市 小川 七愛(小四)
 寒い夜もうふの中の父の足 大垣市 高田 茉友里(小四)
 秋の空かいきやくでかおゆかにつけ 大垣市 山川 璃恩(小四)
 ペース走トップでゴール秋のにじ 大垣市 渡邊 詩月(小四)
 東京は寒い日でもねむらない 大垣市 末永 修大(小五)
 寒さましましみな声なくし静かな日 大垣市 伊藤 彰啓(小六)

選者吟

押しくらまんじゆうたんと笑ってたんと食べ

よちゑ